

第七十九回「本郷ふじやま公園古民家歴史部会」「古都鎌倉」歴史探訪

「Ⅳ」7月4日（木）甘縄神社・鎌倉文学館・和田塚

（集合；「鎌倉駅」西改札口9時50厳守）

行程；江ノ電「鎌倉駅」→「長谷駅」→光則寺→川端康成記念館→甘縄神明神社→鎌倉文学→吉屋信子記念館→高浜虚子庵跡・句碑→寸松堂→六地藏→和田塚→裁許橋→問注所旧跡碑→鎌倉御用邸・御成小学校→諏訪池・諏訪神社武蔵大路・今小路→「鎌倉駅」。

食事場所；参考、鎌倉駅前・井上蒲鉾店 3F いの上・TEL；0467-23-3112。

- 1・光則寺（日蓮宗・行時山・本尊十界大曼荼羅・寺宝日蓮、日朗像、宿谷光則像、四条金吾頼基像非公開・立正安国論進献法要4月16日・拝観料100円）

日蓮上人の弟子日朗上人が、北条時頼の側近宿屋（ヤト）光則の屋敷に開いた。

1260年（文応1）日蓮が「立正安国論」を幕府に差し出した場所として知られる。立正安国論の石碑・日朗上人の土牢。

☆文学碑；宮沢賢治詩碑、詩人・児童文学者、明治29年岩手県生、大正7年盛岡高等農芸化学科、研究助手。大正10～15年稗貫農学校教諭、短歌、散文、童話も書き、農村に巡って稲作指導をし、農民芸術を語った。昭和3年病死。「雨ニモマケズ 風ニモマケズ 雪ニモ夏ノ厚サニモマケヌ 丈夫ナカラダヲモチ 欲ハナク 決シテ曠（わ）ラズ」賢治。

☆杉聴雨（チウリ）歌碑、本名杉孫七郎、1835年（天保6）長州藩士植木五郎右衛門次男として生、吉田松陰の教えを受け、幕府遣欧使節竹内保徳らとイギリス・フランス視察。特命全権公使、皇太后大夫など歴任大正9年86才没・没後従一位贈られる。「夏のころ三橋翁の墓を弔いて なき人のすかたはみえぬさみたれの宿谷のおくになくほととぎす」聴雨。

☆花便り；四季折々の花が絶えない、樹齢150年のカイドウが見事（4月上旬）・冬梅林・多くの山野草。

☆歳時記；3／21動物慰霊祭。

☆老木；境内のカイドウ（神奈川名木100選、市指定天然記念物）。

- 2・川端康成記念館（非公開・伊豆の踊子・雪国・山の音・古都・千羽鶴等・鎌倉名誉市民）

小説家・明治32年（1899）大阪市北区に生まれる。15歳で孤児、寮生活が続けながら、第1高等学校、東京帝大へと進み、東大在学中の大正10年級友等と第六次「新思潮」を発刊し、2号に掲載した「招魂祭一恵」が文壇で注目される。大正13年横光利一、片岡鉄兵、今東光らと雑誌「文芸時代」を創刊し、新感覚派作家として出発。昭和初期には、新興芸術派の中心的存在となっていく。昭和27年「千羽鶴」で芸術院賞受賞。

鎌倉には昭和 10 年から住み、浄明寺、二階堂、同 21 年長谷に住んだ。又、久米正雄、高見順らと貸本屋鎌倉文庫を開くなど鎌倉文士を中心となって活躍、昭和 47 年鎌倉市名誉市民、昭和 47 年自殺。

- 3・甘縄神明宮（長谷の鎮守・祭神天照大御神・境内社五社明神、秋葉神社・神輿御渡・社宝神輿、源義家坐像・例祭 9 月 14 日、家運隆昌、国土安泰・※北条時宗公産湯の井札鳥居石段下・拝殿屋根青銅色美、建築昭和期）

和銅年間（708～715）に、この辺りの豪族、染谷太郎時忠が創建した鎌倉最古と言われる神社。川端康成の「山の音」には、信悟の家の裏山の神社として書かれている。五本のかつお木；神社の棟木の上に、横に間をあけて取り付けた木・鯉節の様に両端が少し細くなっている円柱状のもの。千木（チギ）；建物の棟の角から空へ交差して突き出した木。甘縄；「甘」は海女のこと、「縄」は漁をする縄の意味と言う。※時宗は時宗松下禅尼の孫からの伝説か？

- 4・鎌倉文学館・長楽寺跡（市景観重要建築・小牧近江記念碑、種蒔く人・観覧料 300 円・寄贈前田氏住宅付近）

鎌倉ゆかりの文学をテーマに、様々な文学者の作品や資料を展示、紹介。建物は加賀百万国藩主、旧前田侯爵家の別荘で、昭和 58 年市に寄贈された。春、秋」バラ。

長楽寺石碑；1225 年（嘉禄元年）政子が頼朝の菩提を弔うため寺を建てた所。元弘年間（1331～33）焼けたと言われ、その後安養院に移されたと言。

- 5・吉屋信子記念館（近代数寄屋風住居・毎年 5，6，10，11 月 1～3 日間公開）

大正から昭和にかけて女性の心情を描き続けた女流作家の居住。1962 年（昭和 37）此の地に新居を構え、亡くなるまで住んでいた。「自分の得たものは社会に還元し、住居は記念館のような形で残してほしい」と言う故吉屋信子の遺志により、土地・建物などが鎌倉市に寄贈され、女性文化教養活動の場として利用されている。

吉屋信子は明治 29 年 1 月 12 日、雄一、マサの長女として、新潟市の県庁官舎で生まれた。官史である父の転勤で佐渡、新発田で幼時を過ごし、34 年、栃木県の尋常小学校に入学した。4 歳の頃から片仮名の絵本を読みはじめ、読書好きの少女として成長している。41 年、高等女学校時代には兄達の書棚に並ぶ文学作品を読み耽（ふか）り、文学への憧れは次第に創作へと進んでいった。43 年、「少女界」の顕彰に応募した「鳴らずの太鼓」が一等に選ばれた。「少女雑誌」から「文章世界」「新潮」など文芸雑誌に投稿。伝記「ある女人像」・歴史小説「徳川の夫人たち」・終焉「女人平家」完成・鎌倉恵風園病院で 77 歳没、高德院（大仏）裏墓地に眠る。墓碑に「秋燈机の上の幾山河」句碑立つ。

- 主馬盛久頸座（シュメリノビサ・五輪塔数基・石碑）

代々平家家臣、主馬盛国の末子、八郎左衛門は頼朝お尋ね者で、獲られ此処で殺されそうになった敷皮跡と言う。

6・寸松堂

昭和 11 年建築の市指定景観重要建築物。寺院建築と城郭建築が合体したような建築、相輪付塔屋。

7・高浜虚子庵跡・句碑「波音の由比ヶ浜より初電車」

1910 年（明治 43）から鎌倉に移住した虚子の住居跡。烏帽子に似た石塔が立っており、虚子が大正初め頃の元旦の朝、この自宅で詠んだ俳句が直筆のままで刻んである。

8・六地藏（芭蕉の辻・仏、人間の苦しみの世界を 6 種に別けて六道と言ひその苦しみを救う・お詣り日毎月 4 日）・六地藏稲荷大明神祠

6 体の赤巾、よだれかけの地藏・と罪人の霊を弔うため祀ったのが始まり・芭蕉句碑。

「夏草やつはものとの夢の跡」（天明 6 年,1786 雪の下住民俳人松尾百遊芭蕉偲んで碑を建てた）。

9・和田塚（旧無常堂塚、明治中期道路工事時塚から埴輪や土器破片、多数の人骨発見、和田一族没地と推定）

二代執権北条義時によって滅ぼされた和田一族の死者を埋めたと言う。原形は失われているとは言え、鎌倉に残る唯一の高塚式古墳である。はっきりした事は不明。和田義盛は、三浦の豪族三浦大輔義明の孫にあたり、頼朝の伊豆挙兵以来、頼朝側近として仕え、侍所別当（長官）、しかし頼朝死後、北条義時のため、一族滅ぼされる結果となる。1213 年（建保元年）北条を倒そうとする企てがもれて、和田義盛の子の義直・義重や甥の胤長らが一味として捕らえられた。上総（千葉）にいた義盛は鎌倉に来て、將軍実朝に許しを願い出るも、子義直・義重は許されたが、胤長は許されず処罰された。此に怒った義盛が一族率いて北条義時邸を攻め、鎌倉市中が戦乱に巻き込まれた。此が和田合戦。2 日に及んだ合戦は和田一族滅亡した。北条氏の和田一族から実権を奪う北条氏の陰謀略だとも言う。

10・裁許橋（以前木橋・問注所近くからの名・鎌倉十橋・西行橋とも歌人西行が頼朝に名を問われた起り？）

○鎌倉十橋；十王堂橋（山ノ内）・勝の橋（寿福寺門前）・裁許橋（今小路）・琵琶橋（下馬四つ角）・逆川橋（大町）・乱橋（材木座）・夷堂橋（本覚寺門前）・筋違橋（雪の下）・歌の橋（金沢街道）・針摺橋（極楽寺）。

○鎌倉十井；銚子、底脱の井、鉄の井、星の井、棟立の井、瓶の井、泉の井、扇の井、六角の井、甘露。

鎌倉は水の質が余り良くなくその中でも最も美味しく、又伝説が伝わる十の井戸を鎌倉十井と言う。南方に六地藏や「飢渴島」(ケガハマ)と呼ばれる刑場跡があった。

11・問注所旧跡碑

1917年(大正6)鎌倉制青年団建立石碑市内でも古いものであったが、平成24年新築された。訴訟を裁判する重要な役所、始めは大倉頼朝屋敷内に置かれていたが、1261年(弘長元年)3月屋敷炎上屋外に移されたと言う。その場所が裁許橋付近と言われる。

12・鎌倉御用邸と御成小学校(一時は中学校・高校3校が併設されていた)

御成小学校から市役所にかけて、かつて鎌倉御用邸があった。建設時期は定かでないが、1892年(明治25年)8月、当時皇太子だった大正天皇が滞在し、師範学校を見学された記録がのこっている。昭和初めまで続きましたが、その後、鎌倉町に払い下げになり、跡地に1933年(昭和8)御成尋常高等小学校が開校した。町立小は鎌倉小(現1小)、第2小に続く第3番目の小学校であったが、校名を天皇や皇族方が御成になったことから、御成小学校と命名したと伝う。校章も桐の紋と取り入れている。校門は御用邸の門を受け継いだものであるが1955年(昭和30)鉄筋コンクリートに建て替えられた。校門左側の門柱に「鎌倉市立御成小学校」標札が掛かっているが、その文字は俳人高浜虚子が書きそれを引き伸ばして彫ったもの。右側のも御成中学校の標札が1966年(昭和41)迄掛けられていた。

○今小路遺跡(古代・中世・近世遺構出土);50m四方のコの字型の建物の柱の穴が掘り出され、その柱の穴から「天平5年(733)」と墨で書かれた奈良初期の木簡が出土した。木簡には、「郷長丸子□□」と書かれており、そのことから、遺構が8世紀のもで、古田官衙(かが・役所)跡と言われる。

13・諏訪池・諏訪神社(祭神竹御名方神・諏訪盛澄ミズミ・盛重の邸内守護神・例祭8月2日)

市役所駐車場に諏訪池と呼ぶ池がり、その池の東畔に諏訪神社が祀られていた。歩道に残る大木がその名残り。諏訪神社は現在、商工会議所西側の小さいながら社殿・鳥居も立派に再建されている。

14・今小路

鎌倉駅西口から市庁舎へ向かう道と交差する北の扇ガ谷から南の六地藏通じる道は鎌倉時代からの古道で、「吾妻鏡」に出てくる「武蔵大路」説がある。今小路は此の道に含まれ、寿福寺前の勝の橋から南に下る道で、巽神社までと言われるが、現在は寿福寺から六地藏に至る道を一般に呼んでいる。

歴史探訪古都鎌倉
第4回7月4日(木)
甘縄神社~和田塚
散策地図
縮尺約 1/10000

